

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	文教生活常任委員会
参 加 者	委員長 井手瀬 絹子 副委員長 神谷 寿広 委 員 新免 悠香 野々山 雄一郎 野本 篤 加藤 嘉哉 中根 武彦 江村 力 太田 俊昭
視 察 日 時	平成 29 年 1 月 18 日（水） 13：30～15：30
視察先・概要	東京都板橋区 人口：526,150 人 世帯数：276,947 世帯 面積：32.22 k m ² 特記事項：住みよさランキング 2016（東洋経済）総合 658 位 （安心 775 位、利便 292 位、快適 64 位、富裕 121 位、住居 806 位）
視 察 項 目	「小中学校におけるキャリア教育」について
視 察 概 要	1．板橋区のキャリア教育について (1) キャリア教育の位置づけ いたばし学び支援プラン 2018 において、これからの社会を生き抜く力の育成の中で豊かな人間性の育成のための重点施策として「キャリア教育・体験活動の充実」をテーマとする。 (2) 「わたしたちの進路 - 自分づくりの旅へ - 」の活用 小中一貫したキャリア教育を推進するため、板橋区独自でプロジェクトチームを立ち上げて作成。発達段階に合わせて小学校第 5・6 年版、中学校第 1・2 年版、中学校第 3 年版がある。 (3) 外部人材の活用 地域教育力を生かし、活用型の授業や発展的な学習を充実させることができ、教育効果が高まる。板橋区法人会と連携を図り、中学校の職場体験の受入事業所の紹介を依頼している。 (4) アントレプレナーシップ教育（起業家教育）の推進 平成 28 年度より、区立全小中学校で教育課程に位置づけを実施。小中学校各 1 校を研究指定校と位置づけ、学習活動のモデルの開発及びその発信を行う。 2．板橋区起業家教育普及促進事業について (1) 事業の背景 板橋区及び教育委員会で、平成 27 年度経済産業省起業家教育普及促進事業について、板橋区のキャリア教育モデルと位置づけ、将来的には教育部署と産業部署が連携のうえ、キャリア教育における「板橋モデル」として確立、さらに発展させていくことを目指す。

	(2) 平成 27 年度経済産業省起業家教育普及促進事業採択の流れ 5 月 15 日 公募要領公表 6 月 12 日 募集締め切り 7 月 採択（平成 27 年度採択学校・団体等 7 件） (3) 実施状況・実施内容（区内 4 校にて実施） セルフウイングプログラムは事業計画の策定から仕入れ、製造、販売、決算まで一連の会社経営の仕組みを体験できる実践的な内容となっている。また、同プログラムの実施に際し、教員及び地域の学生が運営にかかわることで産学公の連携を強化。各人が実施ノウハウを吸収し、持続性ある取り組みとなるように図る。 (4) 児童生徒の反応・成果（合計 165 名の生徒が参加） 働くことの大変さだけでなく、友達と一緒に学習することが楽しいと思う児童も多くいた。また、他者を認めるといった態度も見受けられた。 (5) 今後の展開 教育委員会と産業振興課、企業活性化センターで協議し、平成 29 年度は企業活性化センターで一部小学校における起業塾経費を検討中。
所 感 視察しての感想 や岡崎市への提 言など	・アントレプレナーシップ教育（起業家精神を育む教育）により様々な経験を生かし自分の良さや可能性を発見し、チャレンジ精神を育成する。小中学生における一貫教育。義務教育中は延長教育としてかかわっていけるが、終わった後の対応が疑問。 ・職業体験は岡崎市でも実施しているが、板橋区のようにキャリア教育の小中一貫とはなっていない、せっかくなら連携を取った教育の仕方を取り入れたほうが良いと思った。まずは義務教育の 9 年間のキャリア教育だとは思いますが、その後の高校でも何とか連携が取れば、卒業後に就職を考え出す生徒がいる中で「起業家精神の育成」や「起業家資質や能力の育成」が生かせるのではないかと思った。 ・いろんな実例を見て、議論を重ねていく必要性を感じた。小中一貫でキャリア教育を発展的な活動の繰り返しで取り入れていくことは重要。ただ、小中学校にアントレプレナーシップ教育の必要性には疑問が残る。少ない時間において、まずは農業など様々な職業を体験・学習していくことが先ではないか。そして、キャリア教育には子供と親と一緒に参加、学習してもらえ環境づくりが必要。「働くこと」に関して親とも語りあうことがキャリア教育の現実的な重要な基本となると考える。 ・将来、子どもたちが社会で生きていける力を身につけることは重要であり、キャリア教育の必要性を強く感じた。自分がどうやって生きていくのか早い段階で見きわめることは充足感のある人生への近道であると考え。その自分を見つけるためのプログラムが年代別に分けて完成されていた。本市においては既に体験型の取り組みはしっかりとなされ

	ているが、今回学んだ内面的なキャリア教育のプログラムを既存のものと照合し、さらなる強化をすべきと考える。 ・小中学生に対して行われているキャリア教育、特に「私たちの進路」というテキストでは大人でも記入してみたいと思われるものであった。是非、高校生まで継続してやっていけるような教育体系を期待する。 ・キャリア教育について学ぶべきものはあまりない。しいていえばキャリア教育のカリキュラムが小、中を通じてつくられていたことである。教育は継続性が大切だと考えている。本市でも「○○教育」を推進していく場合は、年間を通じて小中連携したカリキュラムづくりが大切になってくる。 ・起業家教育の目的は明確にされているが、現場（学校）との考え方に違いが多分にあるように感じた。事業が始まって6年経つが結果分析が行政側でされていないことにびっくりした。ただ、毎年お金を使っているだけか。絵に描いた餅になっていないか。 ・板橋区が推進する小中学校におけるキャリア教育は、児童・生徒が将来自立した個人として成長するための土台づくりで「一貫教育」となっている。関係団体（産業連合会・商業連合会・法人会など）との連携を図り、職場体験を充実させ、勤労観や職業観、自らの将来、板橋区の未来、夢や希望を育みさせている。キャリア教育の充実のため全学校の実態にあった小中一貫のキャリア教育年間指導計画を作成させ、進められている点は本市の参考となる。本市も10年前から「キャリア教育」が進められているが一貫教育とはなっていない、参考にすべし。本市の特色ある工業及び農業の見学・体験活動を充実されたい。
委員長の総括	経済産業省の「起業家教育促進事業」を活用し、将来の板橋区を担う産業人の早期育成を図る目的で、小学校4校で実施された活動について説明いただいた。板橋区では平成22年から「子ども起業塾」として毎年度開催されていたことと地域に商店街が多いという下地があり、その内容をもとにプログラムを再編成し実施されている。また、「小中一貫キャリアガイダンス資料」を平成20年より小5～中3までの全児童・生徒に配布し、キャリア教育の推進を図っている。教育課程の中にキャリア教育を位置付けていることは重要である。実践体験を通じてビジネス、会社経営、経済の仕組みを肌で感じることはこれからの子供たちにとって大変重要なことと考える。キャリア教育が「ごっこ」になっては意味がない。長い目を見た時に、今から本気でキャリア教育に取り組んだところとそうでないところの差は出てくると思われる。本市にあったふさわしい方法での取り組みを希望する。